

DENTAL PRESENTATION ▶ PROLOGUE

はじめに

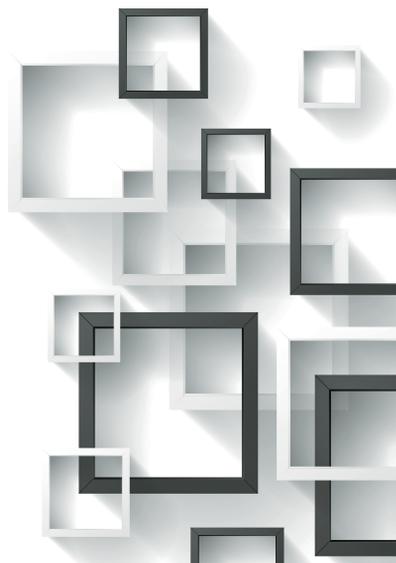
いまやコンピュータと液晶プロジェクターを使ったプレゼンテーション（以下、プレゼン）が、歯科業界に限らずあらゆる分野で当たり前のように行われています。それに伴い、アメリカの有名なプレゼンイベントであるTED Conference<sup>\*</sup>に代表されるように、いかにして自分の主張をスマートに、よりわかりやすく聴衆に伝えるかが注目されています。

<sup>\*</sup> [www.ted.com](http://www.ted.com)

かつての学会発表や講演会では、スライド写真1枚1枚を専用のカセット（コダック社製の丸いカールセル型のは、俗にドラムと呼ばれていました）に入れ、光学プロジェクターで大画面に映すというのが一般的でした。それもそれほど古い話ではありません。いまから10年ちょっと前には、かえてそれが普通だったのです。

教授の学会発表のスライドを作るために、医局員がレタリング文字の配置やグラフの作成、実験写真の貼り付けなどに膨大な手間暇をかけ、夜を徹してそれを撮影してスライドにしたというような話も珍しくありませんでした。いま思えばこんなにつまらない手作業に、医局員の貴重な研究の時間が消費されていたのです。

大きな会場では光量の強いプロジェクターを使いますから、講師が1枚のスライドで長く話すぎてしまって、とくに黒い部分が多いX線スライドなどがメラメラと火に包まれたなどという、いまでは笑い話のような事件もたびたび起こっていました。事故に備えて、こだわ





りの強い講師は、多大な経費をかけて自分のスライドをデュープ（予備のスライドとしてコピー）しておいたという話も聞いたことがあります。

当然、スライドの直前組み替えなどは不可能ですし、長い講演になるとスライド枚数が多くなるので、遠方からの講師は海外旅行で使うような大きなスーツケースにスライド写真をいっぱい詰め込んで現地へ乗り込みました。

業者にスライドの製作を頼むと、ブルーバック白抜き文字で1枚1,000円、1色増えるたびに約1,000円加算ですから、たとえば6色のスライドを100枚作ったとすると、それだけで60万円もしたのです。これではいくら高額な講師謝礼をいただいても足が出てしまいます。

口腔内写真の撮影は基本的にトリミングができませんから、良質なプレゼンには厳密な規格写真を撮るためのテクニックが不可欠でした。アングル、光量、フィルム選び、ミラーの使い方など、私も若い頃は先輩から随分叩き込まれたものです。スライド写真が現像からでき上がってきて初めて失敗写真だったことに気づき、何度悔しい思いをしたかわかりません。

そんなアナログ時代を経て、やがて急激にデジタル・プレゼンテーションの時代がやってきます。

1990年代前半、私が初めて出会ったスライド作成ソフトは、当時Aldus社から発売されていたPersuasionというソフトでした。パソコンはまだまだ高価でした

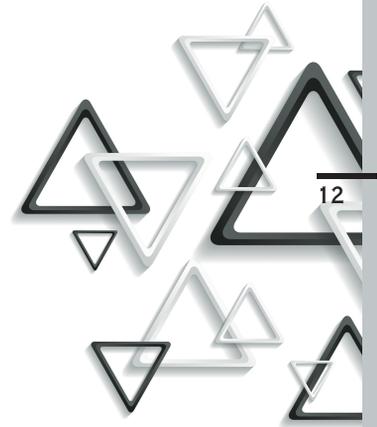
が、それでも40万円くらいで買えるようになり、何とか一般の人でも手に入るような時代が来ていました。私はたまたま近所の先生にMacintoshの手ほどきを受け、いわゆるMac派でしたから、Persuasionには無理なく入り込むことができました。

このソフトはPowerPointに代表されるプレゼンソフトの先駆けとして、いまでも語り継がれる優れたソフトでした。スライド作成画面で文字と画像の合成ができ、バックグラウンドや文字色、さらにはその配置や大きさも自由に決められるという機能は、スライド製作に画期的な変化をもたらしました。

1スライドに何色使っても、どんなフォントを使っても、それを1つの画像で保存して現像に出せば、製作費は同じ、レイアウトも自由自在、何よりもワープロ感覚で簡単にスライドが作れるという機能は、アナログにはない圧倒的な便利さでした。

それでもなお、スライドフィルムをカチャカチャ入れたり出したりという煩わしさは相変わらずでした。しかし、やがてノートパソコンの普及により、プレゼンソフトのスライドショー機能を使って、パソコンの画面を直接プロジェクターで投影することができるようになります。

当初、コンピュータと液晶プロジェクターの接続はトラブル続きでしたが、うまく接続できて自分の作成したスライドが大画面に映し出されたときの感動は圧倒的で、まさにプレゼン革命といってもよいほどの衝撃でした。



その後、Windowsの台頭に伴い、プレゼンソフトとしてはPowerPointが主流となりますが、基本機能はすべてPersuasionと同じです。驚くのは、当時からすでに投影スライド画面に映像（動画）を組みこむ機能があったことです。医院のスタッフに「いつかこのスライドに窓が開いて画面が動くようになるよ」と熱く語ったことをいまでもよく覚えています。（なぜかPersuasionはその後、突然に発売中止となり、しばらくしてMacではKeynoteが標準のプレゼンソフトとなります）

そのような経緯を経て、いまやコンピュータ・プレゼン全盛の時代となりました。しかし、機材や方法が変わっても、そこに流れるプレゼンの原則はそれほど変わらないはずです。本書では、そんな昔のエピソードを交えながら、「本当に優れたプレゼントとは」をテーマに、思いつくままに書き進めていきたいと思っています。

本書の構成は、

第1部：

プレゼンを行う際に注意すべき一般的事項

第2部：

具体的なスライド作りとプレゼンの進行の仕方

第3部：

本文で強調しているプレゼンのポイント

となっています。どこからお読みいただいても結構です。

いくつかのコラムとあわせ、ぜひお楽しみください。

